

II 団体紹介

失語症会話パートナー養成「あんど」(福岡県福岡市・北九州市).....	5
くまもと失語症会話パートナー講座(熊本県).....	6
高知県言語聴覚士会地域福祉部 会話パートナー養成講座(高知県).....	7
四日市会話パートナーの会(三重県四日市市).....	8
あなたの声(愛知県名古屋市).....	9
失語症会話パートナーの会[港](神奈川県横浜市).....	10
失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」(東京都世田谷区).....	11
板橋失語症会話パートナー「笑顔」(東京都板橋区).....	12
むさしの会話パートナーズの会(東京都武蔵野市).....	14
多摩失語症友の会「こだま」(東京都多摩市).....	15
我孫子市(千葉県我孫子市).....	16
市川市役所・言語デイサービス ミカタ市川(千葉県市川市).....	17
埼玉県言語聴覚士会(埼玉県川越市・さいたま市).....	18
NPO 宙(群馬県前橋市).....	18
NPO 法人和音(東京都豊島区).....	19

失語症会話パートナー養成「あんど」

所在地	福岡県（福岡市／北九州市）	団体設立年	2003年9月1日
会員数	19名	現在活動中の会話パートナー数	39名
主な活動先と支援内容	<p>①失語症友の会（例会・交流会）失語症サロン。</p> <p><支援内容> 会場設営、進行援助、板書、ゲームやテーマトークのリード、会話交流の援助、会報作成・送付など</p> <p>②あんどSTの居る施設のグループプリハビリ</p> <p><支援内容> 会話交流の援助</p>		
団体の活動	<p>「あんど」としては①失語症会話パートナーの養成と活動支援、②失語症者への支援、③ご家族、関係者への支援を行っている。</p> <p>①養成講座を概ね毎年開催。養成後はともに活動し、勉強会、情報交換、書籍の紹介の時間を設けて学ぶ機会を維持し、交流会・サロンの準備をともにして終了後は感想を話し合うなど協力体制を整えるようにしている。</p> <p>②友の会など直接お目にかかる方以外の失語症者に対しては、失語症支援カード・リーフレットの配付（送付）を開始。HPからのダウンロードも可能。</p> <p>③ご家族、関係者に対しても、②の支援カードリーフレット配付を行っている。また、3時間程度の研修講座を、ご家族対象、支援者対象などで開催。ボランティア団体からの依頼で研修会講師を務める機会も頂いた。</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の場が限定されていること。 ・マンパワーの維持（拡大）が難しい。 <p>個別の事情で継続が難しい場合がどうしても出てくる（避けられないことだと思うが）。</p> <p>STも勤務体制の変更など（日曜勤務など）で、時間を合わせにくくなっている。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の継続には、会話パートナーとして学び達成感を得ること、仲間とともに活動すること、会話パートナーそれぞれの個性を大切にすること、個人の事情を尊重して無理なく参加すること、などが大切と考えている。 ・そのため、会話パートナーとSTが、活動時の経験や感想・疑問を聞き合う（共有する）場を持つようにし、休んだ時の情報は会報やメールで送る体制を整えるよう努めている。（……が、いずれも簡単ではありません） 		
その他	<p>他団体に聞きたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営資金確保の工夫（助成金申請のほかに） ・（経験豊かな）パートナーさんが活動時に携帯・準備している「もの／道具」の「リスト」 <p>優先順位や相手の方で何か工夫していることがあれば……。</p> <p>例えば、最低限バージョン ～ 最大限バージョン 重度の方用バージョン ～ 軽度の方用バージョンなど</p>		

現在の活動

①個別の要望への対応	
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉機器展講演会で、参加者に対しての板書（要約筆記）。 ・月1回の失語症者交流事業で、参加者全体に対しての板書（要約筆記）。
③居場所作り	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡で会話サロンを始めた。
④見守り的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・例会の往復で偶然会ったら、声をかけて一緒に来ている。
⑤緊急時の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・失語症支援カードを作成し配付しています。 ※キャッシュカードサイズの携帯用カード。失語症の方とのやりとりの基本が記載され、緊急時連絡先などの記入欄がある。
⑥その他	<p>会話パートナーさんがそれぞれに考えているものとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失語症の方の居場所作り 今の月1回の例会よりも頻度多く行ける場が出来れば。 ・失語症の方々の他地区交流を兼ねた旅行企画 ・デイサービスや、個人から、病院からでも要望があれば会話パートナーとして活動したいが、その窓口をどのように作っていくべきか考えている。 ・会話パートナーの住んでいる地域で活動したり、周りの人へも活動を勧めたいが、自分たちだけでは難しさを感じている。

くまもと失語症会話パートナー講座

所在地	熊本県熊本市	団体設立年	2008年
会員数	13名	現在活動中の会話パートナー数	4名
主な活動先と支援内容	熊本県言語聴覚士会が開催する、複数の失語症友の会が参加するイベント（今年度は失語症者運動会）に対して、前年度、前々年度に失語症会話パートナー養成講座を受講された方からボランティアを募っている。		
団体の活動	年に1回、熊本県立大学にて失語症会話パートナーを養成する講座を行っている。その他、希望に応じて施設出張形式の講座を行っている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○支援活動についての課題 活動先が広がらない。 ○会話パートナーの会（団体）についての課題 発足時が若手中心のメンバーであったため、ライフスタイルの変化に伴い、やむを得ず活動への参加が難しくなるケースが多い。 		
その他	○他団体に聞いてみたいこと 病院や施設に勤務しているSTのみで活動している団体の運営の工夫について		

高知県言語聴覚士会地域福祉部 会話パートナー養成講座

所在地	高知県高知市	団体設立年	2006年
会員数	受講生 319名	現在活動中の会話パートナー数	なし
主な活動先と支援内容	失語症の方と関わりが多い人にコミュニケーションスキルを身につけてもらうことを目的に失語症会話パートナー養成講座を行っている。 実施回数は18回となった。 内容は、失語症の基礎知識から、会話のスキル、そして失語症の方に協力してもらい、実践してもらう時間をもっている。		
団体の活動	年2回 失語症会話パートナー養成講座を開催している。		
課題	○支援活動についての課題 講習会のみ行っているため、会話パートナーのその後のフォローが出来ていない。 ○会話パートナーの会（団体）についての課題 会話パートナーの会がない。		
その他	現在、当会では会話パートナー養成講座に関わっているSTは約30名いるが、講師役を務められる人材が少ない。そんな中、今後、実践的な講座をつくっている予定だが、会の中で講師たちの勉強会は行っているのか、また、講師の育成方法を教えて欲しい。また、当会では行っていないが、どのようにして会話パートナーの活動の場を作っているのか教えて欲しい。		

現在の活動

①個別の要望への対応	県社会福祉協議会の施設を借りて、月1度失語症及びコミュニケーション障害についての相談を行っている。 (当初月2回、2011年5月開設)
③居場所作り	上記①の施設で月1回「ピアサロン」を開き、誰でも自由に集まって談話できる場所作りをしている
⑥その他	障害者支援施設に「リラクゼーションのための和みのヨガ」ボランティアグループと一緒に行動し、失語症や他の言語障害の人を担当し会話をしている。 (月1回)

四日市会話パートナーの会

所在地	三重県四日市市	団体設立年	2004年
会員数	37名	現在活動中の会話パートナー数	30名
主な活動先と支援内容	①失語症友の会の例会で、交流会の支援 （グループトークの際のサポート、ゲームのサポート板書、社会見学の際のサポート、スポーツレクリエーションのサポート） ②会議の際のサポート（内容のまとめ、重要事項のメモ作成、発言のサポート） ③障害者福祉センターの例会の交流会の支援（1対1の会話を楽しむ役割）		
団体の活動	年2回、スキルアップ講座に出席		
課題	○支援活動についての課題 職業を持っている方が多く、派遣人数が集まりにくい ○会話パートナーの会（団体）についての課題 活動が一部の人に偏りがち。 パートナー同士の交わりがない。		
その他	○プログラムへの希望 勉強のため、記録をまとめて下さい。		

現在の活動

①個別の要望への対応	（手紙書く、買い物同行、病院に同行、市役所に同行に行くなどを考え中）
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	会議、説明会は要約筆記を実施している。
③居場所作り	月1回、交流会を実施している（パートナーと失語症者）。
⑥その他	個人派遣ができるようになれば良いと思う。

NPO 法人 あなたの声

所在地	愛知県名古屋市	団体設立年	2007年5月
会員数		現在活動中の 会話パートナー数	68名
主な活動先と 支援内容	<p>主な活動先：失語症友の会(8団体)及び施設や他団体(5団体) 合わせて15箇所</p> <p>支援内容は様々であり、会や団体の事業、行事に合わせてコミュニケーション活動を中心に支援活動を行っている。</p> <p>失語症友の会の例会での</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話し相手 ・外出時の介助 ・企画立案のサポート ・通所リハビリやディサービス等のSTの補助 ・障害者団体の行事の手伝い ・時々、個人支援 		
団体の活動	<p>会話パートナー限定の養成講座開催の共催 友の会連合会の行事の(失語症間の交流会や総会)サポートと企画</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題 外出時(バス旅行、公共機関利用)介助が必要となるケースが出てくる場合の対応の仕方。車椅子、トイレ、食事や体位移動など。また、途中や行き先のバリアフリー、スロープ等の事前調査が必要。 現在支援している当事者がどんどん高齢化し、外出を控えたり介助部分が増えてくる。お出掛け企画が多いとパートナーとして寄り添うのにも費用がかさむ。</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題 会員の定着、普及に苦労している。また、一般市民への理解と認識を深めるためのPR活動の方法について苦慮。会員の所在地ならびに活動地域は愛知県全域であるため、移動時間と費用がかかる。 提案・召集に仕掛けが必要。</p>		

現在の活動

①個別の要望への対応	<p>①パソコン操作の支援活動を2名に対して行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エクセルの表計算について週1回で約5ヶ月。 2. ワードについて週1回で約5ヶ月。 <p>②個展開催の支援・・・出展品の搬入搬出、展示、見学者の受付。</p>
③居場所作り	<p>①STが立ち上げたサロンへの支援参加</p> <p>②STの紹介で施設、団体へ出向いての支援活動</p> <p>③失語症者の方が個展を開かれる場合、出展品の搬入、受付などの手伝い</p>
④見守り的な支援	<p>①会話パートナーに携わるようになってから身障者に対する考え方が変わった。</p> <p>②今まで身障者に出会うと目をそらしていたが、現在は手を差し伸べるようにしている。</p> <p>③バス停などで身障者の方を見かけたら優先するようにしている。</p> <p>④街を散歩してスロープ、バリアフリー、公園のトイレなど身障者に不安全感を感じる。</p>

失語症会話パートナーの会[港]

所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区	団体設立年	2006年
会員数	45名	現在活動中の会話パートナー数	33名
主な活動先と支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ [港]主催のサロンでの会話支援 ・ 各区中途障害者活動センターでの会話支援と活動支援 ・ 各区リハビリ教室での会話支援 ・ 当事者団体での会話支援 ・ [港]事務局での活動 ・ 老人保健施設へ訪問して個別の話し相手 ・ 個人宅訪問 		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会話サロン3ヶ所の開催（各月1～2回） ・ 会員向けの会報を年2回発行 ・ 年1回、失語症会話パートナー養成講座修了者向けフォローアップ講座の開催（横浜失語症会話パートナーを養成する会と共催） ・ 年1回、公開講座の開催（会員外の参加も可） ・ 年1回、横浜失語症会話パートナーを養成する会との合同会議の開催 ・ その他、イベント出席や依頼された支援（単発）への随時対応 		
課題	<p>○会話パートナーの会（団体）についての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別に活動しているパートナーは多いが、講座に出てくる人は一部の決まった人のみ ・ 事務局の世話人の固定化 		

現在の活動

③居場所作り

会話サロン 3ヶ所の運営

失語症会話パートナー世田谷連絡会「世パネット」

所在地	東京都世田谷区	団体設立年	2007年
会員数	60名	現在活動中の会話パートナー数	40名
主な活動先と支援内容	世田谷区内の失語症者の自主グループ、及びSTが担当している失語症グループなどで活動。 グループ会話での当事者間の橋渡し、会話サポート。 自主グループでは運営にも関わり、例会の計画も立てる。		
団体の活動	世田谷区内で活動する会話パートナーの結集を目的として設立。年に2回例会を開催し、会話パートナー同士の情報交換や交流、スキルアップのための研鑽を行なって、必要な時、必要な場で会話パートナーとして協力し合える関係をつくり、失語症の方の社会参加のお手伝いすることを旨とする。 また、「みんなで読む失語症回覧板」を不定期に発行。自主グループで活動している失語症会話パートナーに当事者さんとの会話のネタを提供するとともに、失語症や会話パートナーに関する情報を広く普及する。 当会では失語症者への日常的な支援活動は団体としては行っておらず、また会話パートナーの養成、指導、派遣などには携わっていない。失語症会話パートナーの養成は区が2005年から行っている事業。なお、障害者総合支援法の施行に伴い、失語症者に対する意思疎通支援事業の具体的展開に関して、行政当局や区議などからの会話パートナー活動の実態調査や支援に関する具体的な提言を求められた時の世田谷区における窓口となっている。		
課題	○支援活動についての課題 自主グループの活動に参加して支援している会話パートナーから、活動に必要な部屋の確保が難しいという声がある。区民センターや地区会館など公共施設の部屋を借りる際、抽選に外れると、いつもと同じ施設・同じ曜日で活動できなかつたりする。部屋の確保に苦労している。 ○会話パートナーの会（団体）についての課題 世田谷区が養成する会話パートナーは毎年10人前後であり、多くは当会に入会しているが、例会に出席するメンバーが増えない。失語症の方の社会参加のお手伝いのできる団体として、一層の連携を目指したい。		
その他	○他団体に聞きたいこと 会話パートナー同士が「集う」喜びを、どのように見出したり生み出したりしているのか？		

現在の活動

①個別の要望への対応	講演会等で登壇、発言する失語症者のサポート
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	高次脳機能障害連絡協議会の総会で個別支援として要約筆記
⑤緊急時の支援	東日本大震災当時の事例

板橋失語症会話パートナー「笑顔」

所在地	東京都板橋区	団体設立年	2002年
会員数	63名	現在活動中の 会話パートナー数	54名
主な活動先と 支援内容	<p>○自主グループ6ヶ所 『撫子』料理の買出しから調理・会食を目的とする女性グループの会。 ⇒買出し、調理の見守り、会計、計画の手伝い 『ステッキーズ』主に公共交通機関を使用した外出が目的のグループ。 ⇒計画の手伝い、目的地への下見、外出時の動向 『サロン朝顔』板橋区社会福祉協議会の「福祉の森サロン」として活動。 『サロン青空』ゆっくり茶菓を取りながら会話を楽しむ会。 『おしゃべりの会』失語症の方で復職希望、職場復帰をなさった方の会。 『虹の会』失語症の方とその家族の方が立ち上げた友の会。 ⇒例会の計画やその進行の手伝い</p> <p>○ST指導施設2ヶ所 『板橋区障がい者福祉センター』グループ訓練の補助。訓練前後の会話。 『みずべの苑』板書、会話の補助。</p> <p>○その他、ディサービス施設、工事脳機能障がい者のグループ補助。</p>		
団体の活動	<p>○年1回総会。「笑顔」1年間の活動報告。 ○年2回ステップアップセミナーを開催。板橋区の助成を得て、養成講座担当STによる勉強会。同時に定例会。（福祉センターが予算をたてて） ○養成講座受講生に対する活動 ・会話パートナー養成講座1対1会話実習でのAPさんのアテンド。 ・会話パートナー養成講座内、終了時の活動先紹介。</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題 ・自主グループの利用者は自力参加が基本。体調をくずし足が遠のくが、現状送迎についてはお手伝いできない。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題 ・ご家庭、ご本人の事情もあり、休会者の活動復帰が見込めない。 ・同じ理由でスキルアップのチャンス、定例会、総会等、出席者の顔ぶれが決まってしまう。 ・役員制の会から自主グループ持ち回りの事務局制への初年度。こちらについての課題はこれから。</p>		

現在の活動

<p>①個別の要望への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての会話サロンへ参加時の同行。サロン最寄り駅から目的地まで。 ・失語症者ご家族との携帯等での連絡。「今家を出た⇔会に着いた」の安全確認。 ・会話パートナーではないが、自主グループのボランティアが車で送迎することがある。
<p>③居場所作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2010年6月、福祉の森サロン2ヶ所目となる「青空」を立ち上げ。区内を通る電車2路線両方にサロンを置けたことで、失語症の方の交通の利便が上がった。 ・各自主グループやST指導施設で他のグループの内容をお知らせし、お誘いをしている。失語症参加者のお顔ぶれは重複しますが、色々な会に参加することで、外出やおしゃべりすることの機会向上に繋がっていると思う。
<p>④見守り的な支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お見かけした際は、当然ご挨拶や日常会話となります。 ・失語症の方が通うデイサービスに立ち寄り。手工芸品の購入も。
<p>⑤緊急時の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会としては具体的にはなし。 ・個々のグループでは 板橋区障がい者福祉課の「ヘルプカード」や N T Tの「お助け手帳」など、失語症の方に紹介、配布。
<p>⑥その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会話パートナーとしての活動から、更に高次脳機能障害・難病・認知症等の方に対してもボランティアで活躍する方がいる。どなたに対しても向き合う気持ち、姿勢は同じ。 ・行政主催の失語症セミナーで、会話パートナーと、その活動内容発表の場を持った(6月24日開催)。今後も機会があれば参画し「失語症会話パートナー」をより多くの方々に知っていただきたい。

むさしの会話パートナーズの会

所在地	東京都武蔵野市	団体設立年	2008年3月1日
会員数	43名	現在活動中の会話パートナー数	34名
主な活動先と支援内容	<p>市の事業として2ヵ所、自主グループとして3ヶ所で会話の手伝いを行っている。</p> <p>市の事業 ①山桃の会（毎週水曜日） ②秋桜の会（第1, 3土曜日）</p> <p>自主グループ ①すみれの会（第1, 3木曜日） ②花みずきの会（第3月曜日） ③桜の会（年4回）</p> <p>失語症会話パートナー養成講座の補助スタッフとして参加</p>		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の方へ失語症を知ってもらうためのリーフレットを作成、配布 ・市の市民社協などと共に市民向けの講座を実施 ・スキルアップ講座をSTを迎えて実施、その後、交流を図るために食事会を行う 		
課題	<p>○支援活動についての課題 養成講座が毎年行われパートナーの人数が増えているが、活動できる場所が少ない。</p> <p>○会話パートナーの会（団体）についての課題 人数が多くなってくるので、自由に発言でき、情報も共有できる風通しのよい会になると良いと思っている。</p>		
その他	<p>○他団体に聞いてみたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅の失語症の方への支援をどうしているか ・実際に訪問している時の注意点 		

現在の活動

③居場所作り	近い所に住んでいる方々のグループ作り お互いの家を訪問したり、食事に行ったりして欲しいと考えています。
⑤緊急時の支援	行っていないが考えてみたい。

多摩失語症友の会「こだま」

所在地	東京都多摩市	団体設立年	1998 年
会員数	登録 35 名(出席 20 名程度)	現在活動中の 会話パートナー数	登録 13 名 (出席 8 名程度)
主な活動先と 支援内容	こだまの会のサポート <ul style="list-style-type: none"> ・例会の会場設定（部屋の開閉錠を含め）、片づけ ・例会の時の会話サポート（例会：月 1 回、会話の会：月 1 回 会話パートナー 2 名、参加者 10 名） ・バスハイク、クリスマス会、夏祭などの行事の計画と実行 ・補助金申請、ボラ保険扱い、会報発行 		
団体の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・年 1 回の会話パートナーフォローアップ ・年 1 回、失語症入門講座（一般の方も参加する） 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○支援活動についての課題 <ul style="list-style-type: none"> ・個人の付き添いなどの要望はなかなか出てこない ○会話パートナーの会（団体）についての課題 <ul style="list-style-type: none"> ・現在、市でパートナーの養成をしていないので人数が増えない。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・会話パートナーが意思疎通支援者として認可されたボランティアになった時のメリットやデメリットを考えて欲しい。 		

現在の活動

①個別の要望への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・作業所内でのトラブルの時に代弁した。
③居場所作り	例会以外の会話の会（いけいけ）を会話パートナー 2 名で行っている。 会話の時間後は、昼食を一緒に食べたり、散歩に行ったりする。
④見守り的な支援	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの失語症の方に、災害時要支援者に登録してもらい、会話パートナーが支援者となった。 ・地域で失語症の方に出会ったら声をかけるようにしている。
⑥その他	老健入所の会員のところへ会話の訪問に行き始めている。

我孫子市

所在地	千葉県我孫子市 (所轄課:我孫子市障害者福祉センター)	団体設立年	2005年養成開始 2007年派遣開始
会員数	23名	現在活動中の 会話パートナー数	17名
主な活動先と 支援内容	<p>我孫子市は、市の福祉サービスの事業として、申請のあった個人に対し、会話パートナーを派遣している。</p> <p>現在は、毎週2回、地域の公共施設に集まる失語のある人全員に対して、自由会話の話し相手として会話パートナーを派遣している。</p> <p>その他、話し相手として、個人宅への派遣(週1回1名)や、外出での会話補助として、映画や食事会(2ヵ月に1回約3名)への派遣、失語症友の会の日帰りバス旅行への派遣(年1回4~5名)を行っている。</p>		
団体の活動	<p>以前は会話パートナーが設立した団体が2つあったが、現在はいずれも解散している。</p> <p>我孫子市では、会話パートナー交流会と次年度派遣事業説明会をそれぞれ年1回ずつ開催。</p>		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <p>外出先での会話補助は、歩行や電車の乗り降りなど移動の見守り等を行う必要があるが、どこまで会話パートナーに支援を求めるか、明確な規定を設けることが困難。</p> <p>高齢の家族の介護、パート就労、その他のボランティア活動等のため、会話パートナーの活動日数が少なく、コーディネーターが難しいことがある。そのため、積極的な広報活動ができず、対象者が増えないという問題がある。</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題</p> <p>以前は、会話パートナーが設立した団体が2つあったが、現在はいずれも解散しているため、会話パートナー同士の交流が少なくなっている。</p>		
その他	<p>【担当課からの要望】</p> <p>①活動の頻度や内容</p> <p>②会話技術に関するブラッシュアップの方法</p> <p>③広報活動の方法</p> <p>【会話パートナーからの要望】</p> <p>①他の団体が行っている実際のコミュニケーション場面の紹介</p> <p>②言語聴覚士と会話パートナーの役割の違い</p>		

現在の活動

①個別の要望への対応	我孫子市の会話パートナー派遣事業は、個人へ派遣を行うもの。要望があれば、どのような内容でも積極的に検討している。現在は、地域での集まりのほか、映画・食事会、日帰り旅行、個人宅への派遣を行っている。
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	必要であれば対応するが、現在は要望がない。
⑥その他	介護保険施設等への派遣、施設職員への技術指導

市川市役所・言語サービス ミカタ市川

所在地	千葉県市川市	団体設立年	2012 年
会員数		現在活動中の 会話パートナー数	10 名
主な活動先と 支援内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公民館会話支援活動 (全体会話に続いて、個別会話支援) 2. 老人保健施設入所者への会話支援活動 (月に 2 回の個別会話支援) 3. 市川市障害者団体会議の参加当事者への同行 (要約筆記、資料へのマークなど理解向上の補佐) 4. 市川失語症友の会 げんき会例会への出席 (要約筆記・必要な方への個別理解向上支援) 		
団体の活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 失語症についての啓発講座：市民向け (平成 24 年度から年 1 回：講師派遣依頼先 和音) 2. 失語症会話ボランティア養成講座 (基礎講座：ステップアップ講座：フォローアップ講座) 3. 失語症会話パートナー派遣活動 		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①利用当事者の方が固定的で新規利用者への広報が難しい ②ニーズとして自宅派遣や外出支援があるが、課題があり実現が難しい <p>○会話パートナーの会 (団体) についての課題</p> <p>市川市の事業計画・予算などの関係上、養成については 3 か年計画であり、パートナー養成数には限りがある。養成講座の受講者や派遣活動に残る方が少ない。</p>		
その他	<p>○他団体に聞いてみたいこと</p> <p>外出を伴う支援、自宅派遣などの実践について。</p>		

現在の活動

②公的な会議や説明会などでの要約筆記	市川市障害者団体会議に参加する当事者に同行し、要約筆記などを行っている。
⑥その他	介護老人保健施設の失語症市民入所者への月 2 回の個別会話支援を行っている。 (1 回 1 人 30 分)

NPO 法人和音

所在地	東京都豊島区	団体設立年	養成開始 2000 年
会員数	受講生 332 名	現在活動中の 会話パートナー数	32 名 (葉書アンケート回答者数)
主な活動先と 支援内容	<p>和音で養成された会話パートナーはご本人の希望で都内各場所で会話支援のボランティアをしている。(講座修了時にボランティア先を紹介し、コーディネートしている。)</p> <p>○友の会、自主グループ、会話グループ、趣味の会(マーじゃん)等での支援 (約 35 箇所)</p> <p>○デイサービス、言語教室などの事業での言語グループの支援 (5 箇所)</p> <p>○和音の事業</p> <p>①会話サロンでの支援：要町 月 2、新宿 月 2 回×3 グループ</p> <p>②個人宅への訪問</p> <p>③外出同行支援</p> <p>④集団へのポイント筆記支援：失語症友の会東京支部例会、ゆずりは首都圏の集い</p> <p>⑤和音の機関誌、各種講座のスタッフ</p>		
団体の活動	和音養成の会話パートナーの会はないが、年に 1、2 回交流会を兼ねてフォローアップ講座を和音が開催している。		
課題	<p>○支援活動についての課題</p> <p>当事者からの希望として、会話の相手としてが多く、まだ社会活動への参加の支援希望があまりない。訪問はしてみたいが、お宅に入るのは躊躇する、という意見もある。</p> <p>○会話パートナーの会(団体)についての課題</p> <p>和音にも「会話パートナーの会」ができて、パートナー同士の交流が活発になってほしい。しかし、住んでいる場所も活動先もバラバラなので、なかなか難しいのが現状。</p> <p>和音のパートナー養成受講者は家族や介護職がほとんどで、ボランティアとして活動出来る人が少なくなっている。</p>		
その他	○他団体に聞いてみたいこと 会話パートナーが手話通訳者やガイドヘルパーのように地域の行政できちんと位置づけられるようになるのには賛成かどうか、ご意見を伺いたい。		

現在の活動

①個別の要望への対応	買い物同行。まだまだ少ない。
②公的な会議や説明会などでの要約筆記	個人ではほとんどない。 失語症者の会で参加者全体へのポイント筆記など年に数回。
③居場所作り	数カ所あるが、まったく新しく始めるのは難しい。理解のある母体が必要。 (社協の高齢者、障害者向けのサロンに登録するなど)
④見守り的な支援	地域性がないので難しい。ご近所に居たら積極的に声をかけてほしい。
⑤緊急時の支援	地域性がないので難しい。 ご近所にいたら、積極的に知り合いになり登録してほしい。
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉祭りや健康祭りに会話パートナーがブースを出して失語症や会話パートナーの啓発活動をした。 ・これから一人暮らしの人、家族は仕事をしていてなかなか同行できない、というような人が増える。そのような人に同行してもらい、情報の張り取りの支援が出来たらいいと思う。 <p><パートナーのアンケートから></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスなどにも入れたらいい ・当事者とじっくりつきあうことで信頼も生まれ、会話も広がると思うので、長く続けてほしい。 ・パートナーとの会話に対して当事者の感想を聞きたい。